
七日後。

生成 環

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七日後。

【Nコード】

N1442C

【作者名】

生成 環

【あらすじ】

私の娘がいつしよに住まないかといってきた。でも私は、今の仕事をしていると不安になる。

(前書き)

はじめてのホラーです。

私は、その家につくとすぐに出むかえる用意をした。

私が玄関のチャイムを押すと、男性がでてきた。どうやらこの家の主人のようだった。

私が、この家の住所と男性の名前を事務的にいうと、男性はそうです、といったので、私は家にあがった。

老人は、口にさるぐつわをされていて、体中にロープがまかれていた。

部屋の仏壇の遺影には、その老人が写っていた。

私が、老人のさるぐつわをはずしたが、老人はただ唸っているだけだった。

「もうすぐ子供が帰って来るから、はやくそいつをもっていってくれ」

男性は、吐き捨てるように私にいった。

私は、老人のロープをはずした。老人は唸りながら私に近寄った。

私は老人の手をとると、男性の家を出て、老人を車の中にいれた。

私が、男性の家にもどったがもう鍵がかかっていた。

私は、車を運転しながらかんがえた。なぜ、こんなことが起きたかと……。

それが起こったのは五年前だった。

ある外国で、死んだ人間が生き返るというニュースが飛び込んできた。はじめは誰も信じなかったが、生き返る人間の地域が広がっていった。一ヶ月後には全世界に広がった。

最初は、生き返る人間を歓迎した。しかし、家族のことを忘れ、た

だケモノみたいに唸り声をだしているの、だんだんと迷惑な存在となってきた。

だから、生き返った人間を捨てる人がでてきて、問題になった。それを解決するために、国は生き返った人間を回収することにした。ただし、生き返って七日間からで、それはむかし、死んでから七日目の日、いわゆる初七日にちなんだものだった。

でもほとんどの人が、この七日間をガマンできなかった。生き返っても死者は死者であって、愛する人が屍臭が漂い、朝晩唸り声をあげるの、愛せなくなっていくた。

私は、もうすぐ定年退職をむかえる。

娘は、私たち家族といっしょに住まないかといってきた。

でも娘と家族は、私が死んで生き返ったら、私を愛してくれるだろうか……。

（後書き）

「夏ホラー2007」に参加しました。ホラーを書いたことがないですが、頑張って書きたいです。感想をお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1442c/>

七日後。

2010年10月11日13時54分発行